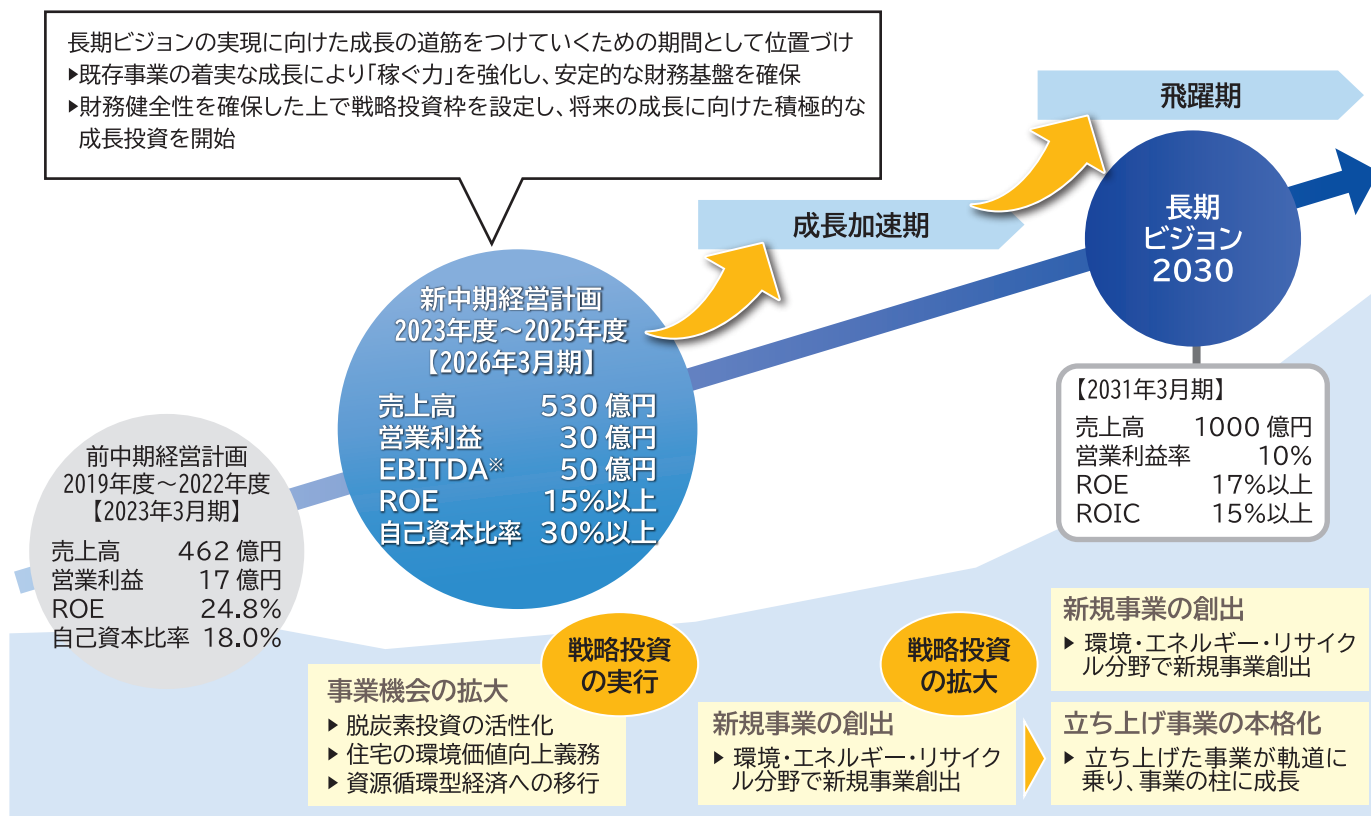


中期経営計画(2023~2025年度)の概要

当社グループは、資源・エネルギー価格の高騰や円安進行に伴う物価上昇などの影響もあり、先行き不透明な事業環境の中、既存事業の持続可能な成長の実現に向けた土台作りを行う期間として、「中期経営計画(2024年3月期~2026年3月期)」を策定しました。

■ サニックス長期ビジョン2030と中期経営計画



※EBITDAは「営業利益」+「減価償却費」

■ 環境分析とマテリアリティの特定

	事業環境	重要課題(マテリアリティ)
住環境領域	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中古住宅市場の活性化に関する政府方針 ✓ 脱炭素の観点での住宅ストックの良質化を志向する政府方針(太陽光設置義務化、ZEH住宅普及等) ✓ コロナ禍における住宅の衛生環境に関する意識・ニーズの高まり ✓ ビル・マンションの老朽化対策加速 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 住宅の省エネルギー化等、住宅に関する環境負荷の低減と環境価値の向上に資するサービス提供体制構築 ✓ 住宅・ビル・マンション等の長寿命化やリフォーム等、既存住宅資源の有効利用促進
エネルギー領域	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域社会や企業において、カーボンニュートラルに向けた潮流が本格化 ✓ エネルギー価格高騰、電力需給ひっ迫、環境意識の高まりによる再エネ利用ニーズの本格化 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 再エネニーズを満たせる電源開発の促進 ✓ 太陽光発電が持続的な社会インフラとなるべく、安定的電源としての地位確立
資源循環領域	<ul style="list-style-type: none"> ✓ プラスチック廃棄物に関する世界的な課題意識の高まり ✓ 社会全体として循環経済への移行を標榜 ✓ 企業に対する廃棄物の適正処理やリサイクル推進の要請強化 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 新たなリサイクル手法の開発 ✓ プラスチックのライフサイクル全体を見直し、循環経済への移行に貢献するリサイクルシステムを構築
グループ全体	<ul style="list-style-type: none"> ✓ コーポレートガバナンスの要請高度化 ✓ ESG指標、非財務情報開示に関する要請強化 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 財務基盤の健全化 ✓ ガバナンス体制の要請事項への対応 ✓ 各領域における企画開発人材の確保、育成

■ 中期経営計画 (財務概要)

2026.3月期 目標			
売上高	530	億円	
CAGR (2023→2026)	5%		
2023.3月期実績	462	億円	

2026.3月期 目標			
営業利益	30	億円	
CAGR (2023→2026)	20%		
2023.3月期実績	17	億円	

2026.3月期 目標			
EBITDA	50	億円	
CAGR (2023→2026)	11%		
2023.3月期実績	36	億円	

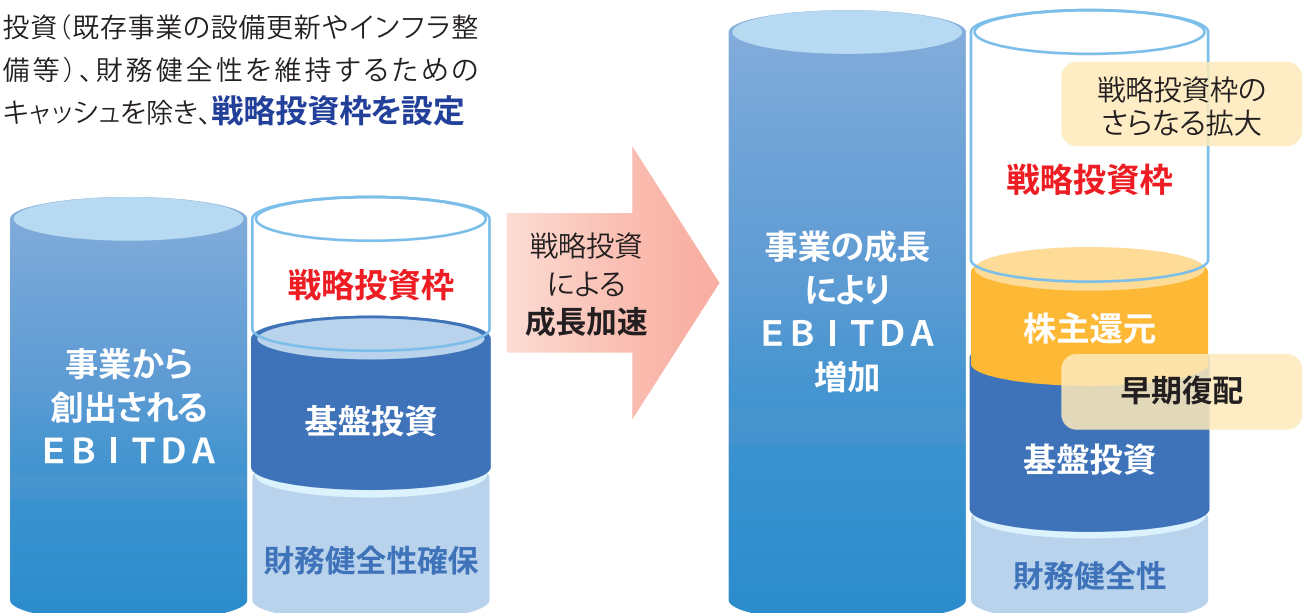
2026.3月期 目標			
自己資本比率	30	%超	
	+12ポイント		
2023.3月期実績	18.0	%	

1. 既存事業の着実な成長により「稼ぐ力」を強化し、**安定的な財務基盤**を確保
2. 財務健全性を確保した上で戦略投資枠を設定し、将来の成長に向けた、**積極的な成長投資**を開始
3. 安定した利益の積み上げにより、**早期復配**への道筋をつける

■ 戦略投資の考え方

- 事業全体で創出するEBITDAを原資に、**戦略投資枠を設定**し、成長投資を実行
- 戦略投資により、将来の成長を加速し、**さらなる戦略投資枠の拡大**と、**早期復配**を果たす

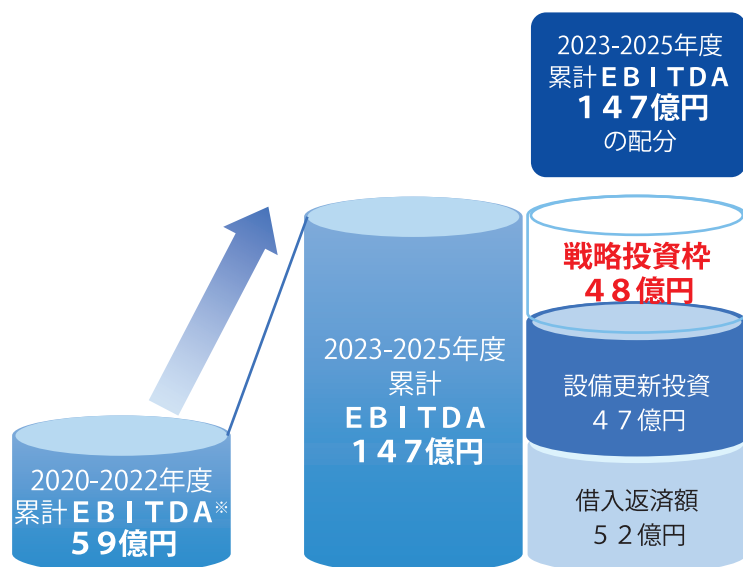
事業から創出されるEBITDAから、基盤投資 (既存事業の設備更新やインフラ整備等)、財務健全性を維持するためのキャッシュを除き、**戦略投資枠を設定**



中期経営計画(2023~2025年度)の概要

■ 資源配分

- 本計画期間において事業全体の「稼ぐ力」を強化し、3カ年累計EBITDAは**147億**円となる見込み
- 借入金返済・設備更新を除く部分については**戦略投資枠**とし、成長の原資として配分する



※EBITDAは「営業利益」+「減価償却費」

3年間で**48億**円の戦略投資枠

設定設備投資(既存拡大・新規)

- ・マテリアルリサイクルへの参入
- ・廃棄物燃料化設備の増強・新設
- ・苫小牧発電所の発電性能向上

研究開発投資

- ・太陽電池モジュールリサイクル実証

人的投資

- ・高度専門人材の確保
- ・積極的人材採用、育成

M & A・提携等

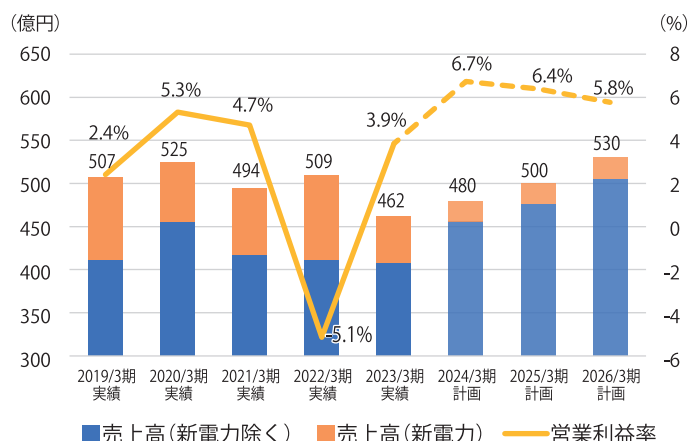
- ・成長の加速(エリア・サービス拡大)
- ・シナジー創出

■ 中期経営計画(数値計画)

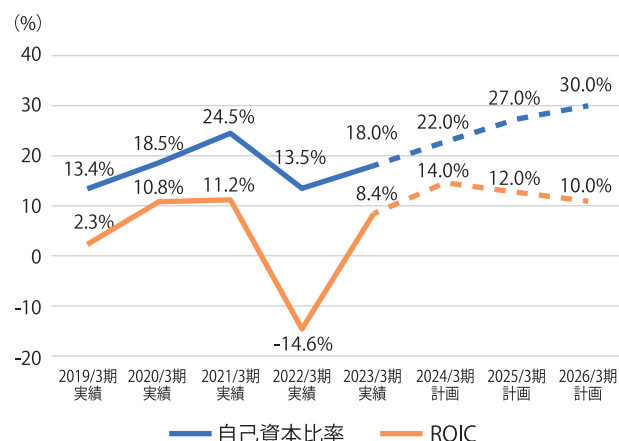
※EBITDAは「営業利益」+「減価償却費」

	2023/3期 実績	2024/3期 計画	2025/3期 計画	2026/3期 計画
連結売上高	462億円	480億円	500億円	530億円
連結営業利益	17億円	32億円	32億円	30億円
EBITDA※	36億円	48億円	49億円	50億円
ROE	24.8%	35.0%	24.0%	16.0%
ROIC	8.4%	14.0%	12.0%	10.0%
自己資本比率	18.0%	22.0%	27.0%	30.0%

連結売上高・営業利益率推移

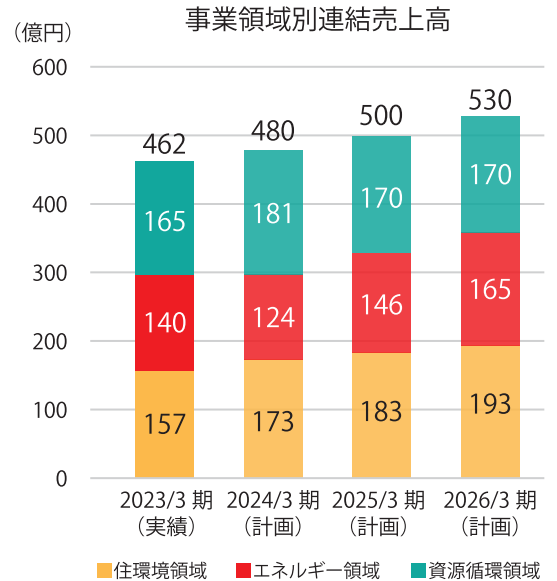


ROIC・自己資本比率



■ 事業領域別売上高・営業利益計画

	2023/3期 実績	2024/3期 計画	2025/3期 計画	2026/3期 計画
連結売上高	462億円	480億円	500億円	530億円
住環境	157億円	173億円	183億円	193億円
エネルギー	140億円	124億円	146億円	165億円
資源循環	165億円	181億円	170億円	170億円
連結営業利益	17億円	32億円	32億円	30億円
住環境	14億円	22億円	23億円	25億円
エネルギー	2億円	1億円	4億円	9億円
資源循環	31億円	36億円	29億円	21億円
配賦不能	▲30億円	▲27億円	▲26億円	▲25億円



Topic

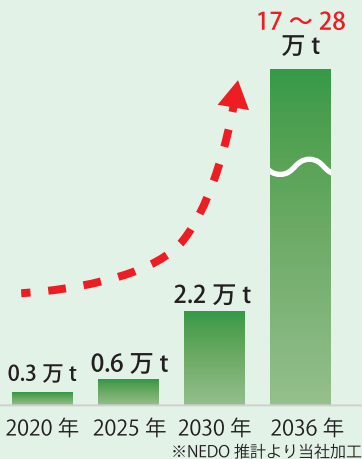
事業化に向けた研究開発

～ 使用済み太陽光パネルのリサイクル実証を開始～

2030年代に使用済みの太陽光パネルが大量に発生する見通しを前提に、太陽光パネルの知見と産業廃棄物の処理ネットワークを持つ当社の強みを生かし、**太陽光パネルのリユース・リサイクル事業の事業化を目指し、技術検証ラインを構築**。

国内における排出量予測

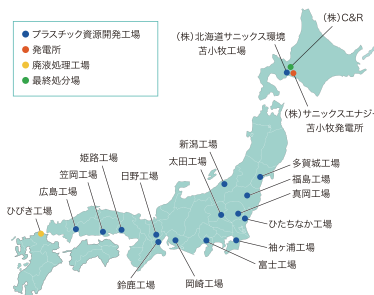
2030年代において、
●FIT期間の終了
●パネル寿命
等の要因でパネル排出量が急激に増加する見通し



太陽光発電事業にて積み上げた膨大な太陽光パネル出荷実績

- 住宅用：約 2 万件
- 事業用：約 2.9 万件
- 累計 1.4GW
- 約 500 万枚のパネル累計出荷実績 (2023年3月末現在)

全国で展開している産業廃棄物処理・リサイクル拠点網の活用



パネルリサイクルイメージ

